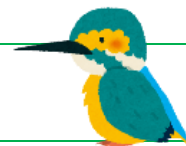


有間竹林愛護会

“対岸から見て
美しい風景にしよう”

<活動のこれまで>



<愛護会と活動地の概要>

結成…2011（平成23）年
会長…原田茂男氏 会員…33人
（2015（平成27）年10月現在）
活動日…月一回、日曜日午前
活動地…もとは畑だったが竹が
繁茂して中に踏み込めないよう
な状況であった。
活動地面積：約5.5ha

<活動の目的>

有間町竹ノ下地内の竹林を整備し、矢作川河畔の景観と河畔の散策ができる遊歩道の敷設により住民および来町者に安らぎを与える癒しの場とする。

<活動内容>

- ① 竹林の間伐作業
- ② 遊歩道の整備
- ③ 管理道路の敷設
- ④ たけのこの採取

2007（H19） 年度	・河畔林整備事業ワークショップに参加（笹戸自治区として）
2010（H22） 年度	・具体的な計画を立てるワークショップ ・行政による管理用道路敷設、広場造成など
2011（H23） 年度	・「有間竹林愛護会」設立。 以降、左記の「活動内容」を継続して行う。 前期5年で中電サイレン柱の東側を整備する計画 以下はそれ以外の出来事について記載。 ・タケノコづくしの食事会（以後毎年）
2012（H24） 年度	・Uターン場整地
2013（H25） 年度	・管理道路敷設（わくわく事業※） ・9月増水。浸水、倒竹、ごみ堆積。道路も破壊。 ・イベントでのお弁当やおでん販売など開始
2014（H26） 年度	・「竹林ふれあいの小屋」建設（わくわく事業） ・階段設置（わくわく事業）
2015（H27） 年度	・管理用道路敷設（わくわく事業） ・それまでに間伐した場所を再間伐。

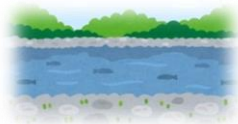
後期5年間はサイレン柱西側の竹の間伐、処理、遊歩道の整備等。
※豊田市の補助金制度。地元住民が地域の課題解決に取り組む事業に助成。

原田茂男会長に

お話を伺いました

2015（平成27）年7月7日

雨音が聞こえる竹林ふれあいの小屋で



●ほんとうやってきたね

旭商工会の人から声がかかって地権者がタケノコを採りだしたのと市のワークショップ*が重なって、うまくタイミングが合いましたね。

ものすごい竹林だったから（笑）、最初はやれるかやあ、ちゅう反応だった。今年がね、前期の最後。先が見えないような竹やぶを（笑）間伐をする、ということがまず、大きな大きな目標だもんで、だんだんだんだん、5年間でサイレン柱のところ（図参照）までたどり着けて、一応前期の目標はおおざっぱには達成できておると。

5年間、実感としてね、ほんとうやってきたね。「もう辞めるか」ちゅう話が出てくるかと思ったけどそういうのは出てこない。定例作業日で「あそこはちいとなんとかしたほうがいいなあ」と思ったら、普通の日に来てね、ちょっとやったりなんかしてくれるんですね。

●都合が悪けりゃお互いさまで

会員は19名だったんですがこれは主に戸主、男性を頭に置いてやっていた。でも女性たちも会員にして保険をかけたほうがいいもんで、今31名かな？全員が毎回というわけにはいかんもんで、「ああいよいよ、都合が悪けりゃね、お互いさまで」って言って。大体平均すると、14人か15人は、出てきてもらえるもんでね。

●ふれあい小屋も自分たちで

この竹林ふれあいの小屋も、自分たちで作ったんだけど。わくわく事業でね、資材のお金は出していただいていたね。会員が家の傍の木を伐るといのでみんなで出材して、一年ぐらい寝かしといたの。会員には大工もいるもんで、土台の穴掘りなんかは自分たちでやって、柱だとかは大工さんが弟子を連れてきてね。

●女性会員も活躍中

女性会員ちゅうてね、イベントにいろんなお店を出すこともやったりするわけ。ご飯を炊いて、お弁当を販売したり、おでんを販売したり、あるいはおしるこを販売したり。

●やれる範囲でコツコツと

全員が毎回出れるわけではないので、ちょっと人数不足。こういうことで苦労しとるといPRが足らんかもしれん。

愛工大の学生さんにはボランティアで来てもらっておるんですよ。ほいからまあ、あと5年、後半の5年間で最後まで行くかどうか、ほれがちょっと心配。がさーっと会員が減っちゃうんじゃないかなあと思ってね。ですけどもまあ、欲を聞いてもしょうがないから、やれる範囲でコツコツと。

●地域のつながりを深める

地域のつながりを深めるちゅうことで、せっかく出たタケノコをとって売っただけじゃ能がないので、それを食べて、みんなでわいわい、お

しゃべりしようという、タケノコのご飯による食事会。それをここでやるんですね。春のものを天ぷらやったりね。で、みんなでお茶飲みながらしゃべったり、お酒飲みながらしゃべったり、そういうなかで、まあ、きずなも増えていくちゅうこと。年寄からね、若い人も、小学生もね、ちょいちょい来たりしてね、食べてくれました。

●良くしていこうという気持ち

今までやってきて良かったちゅうことは、この集落の人たちが、環境だとか景観を良くしていこうという気持ちが非常に強くて、この活動をやっておって、きれいになっていくこと。嬉しいちゅうのか、実感が湧くちゅうのかね、そういうようなことで今まで来たんじゃないかなと思う。

●昔みたいな川とのつながり

ここの人たちは昔からこの矢作川と、密接なつながりでね、生活してこれたと思うんですね。私たちがこの竹やぶに手を入れる前は、こちら側の人たちと川ちゅうのはこの竹やぶが遮断しとったわけ。これが隙間を作って、風を通すことによって、昔みたいな、川とのつながりが生まれていくのかなーっていうそんな気がするんですが。

※河畔林整備事業（2007（H19）年度～）
聞き手：豊田市矢作川研究所吉橋久美子

活動地について



◇位置

矢作川左岸、河口からの距離は約 68km。
豊田市有間町竹ノ下地内。



◇植生

マダケとハチクが混交する竹林。ハチクのタケノコを食用として利用している。

◇河辺の生活史

産業基盤がしっかりしており、過疎化・高齢化が進んではいるものの、衰退感は希薄。かつては川の中に神社があり（今は民家の横へ移されている）、酒蔵下には渡し場があり、そこが子どもたちの遊び場ともなっていた。対岸に池があり、これも魚取りなどの遊び仕事の場として貴重であったが、東海豪雨で消失した。

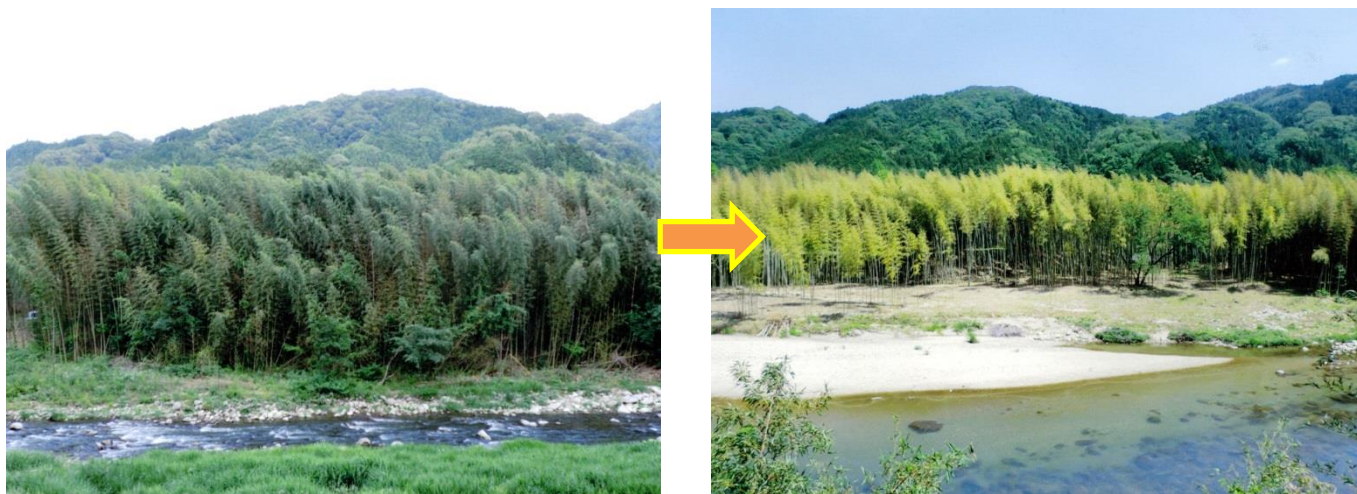
（2007（平成 19）年度 豊田市矢作川研究所 作成資料より）



広場 1 にある「竹林ふれあいの小屋」

整備前と整備後の写真

対岸からの眺め



広場



管理用通路



原田茂男会長 原田錦子さん 畑野幸子さん にお話を伺いました

2015（平成27）年10月7日

鳥の鳴き声、虫の鳴き声が聞える竹林ふれあいの小屋で



左から畑野幸子さん、原田錦子さん、原田茂男さん

●たけの子クラブ誕生！

吉橋：女性会員が活躍してる愛護会って珍しいと思うんです。本当にすごくいいモデルだと思うのですが、どんな思いで活動していらっしゃるんでしょう。

畑野：仲良く暮らすっていうことかなって。今まで近所に居てもしゃべる機会がなかなかなかったのが、こういう会ができて、ご飯を炊いたりだとかお料理の仕方とか、おしゃべりしながら人づくりができて、近所同士が仲良くなれたかなあと思うので、そこがいい点。

原田（錦）：畑野さんがおっしゃったように隣に住んでいても顔も見ないことが多いし、顔見ないからお話もなかなか…。そんなことが、最近、多くなってきたんです。

それで、タケノコをね、出荷してるばかりではつまらないから、自分たちもなんかやることはないんだろうかって。この地区の女性たちに仲間になってくれないかっていうお手紙を出した

んです。そしたら大半の方が、いいねって言ってくださって、「たけの子クラブ」というのができたんです。

それで、積極的に参加してくれる人はいませんか。ってまたお手紙(笑)、出したら、いいですよって4人手を挙げてくださって。

吉橋：そのうちのお一人が畑野さんなんですね。

原田（錦）：はい。とてもよくやってくださって、会計もやってくださって。力強いパートナーです。わたしはすっごく助かってる。

皆さんにね、助けられて。

畑野：そうそう、そうなんです。

●タケノコ料理、レシピと保存のこと

原田（錦）：わたしたちはタケノコの味ごはんをしてるんですけど、やっぱりおふくろの味というか、言い方変えると、若い人から言うと地味な、あはは…。

畑野：今んところね、タケノコを知ってもらうための料理としてはご飯しか出してないので、それ以外なにかね、ほんとにみんなから「ああこれ珍しい」とか「おいしい」とか言ってもらえる商品ができるといいんですけども…。

原田（錦）：今年、タケノコを水煮にして真空パックにして、どれくらい持つかっていうことで細菌検査を依頼しまして、で常温だったらどのくらい、もつか、冷蔵庫保存だったらどれくらい持つかその検査を依頼してます。



タケノコの出荷作業



ある日の愛護会活動日 集合写真

畑野：やっぱり保存っていうのが大変なことで。採れる頃に行事があってみんなに提供できればいいけれども、11月の行事にご飯を炊くっていうことは一番の課題は保存なんですよ。

●人と接する事のおもしろみが出てきたかな

原田（茂）：素人集団が商売をするってなかなか難しい。だから、材料費が出るか出んかぐらい…。

原田（錦）・畑野：はははは…！

畑野：収益なんかは度外視で、また行事が来たからみんなで頑張ろうねーみたいな感じで（笑）！

一同：はははは…！

吉橋：収益ないけどがんばろうねっていうのはどんな思いでしょう…？

畑野：やっぱり最初はね、みんな自由な時間ばかりじゃないので、その時間に集まるって大変だしそれぞれの立場から考えると、めんどくさいなって思ったと思うんですよ。でも、集まるうちに、世間話をしたり、どこやらのものがどこに売ってるとか、そういう世間話いーっぱいすることが楽しくなったのかなあって思って。

それと、同じようなものを作ってて手順がだんだん慣れてくると、みんなもだんだん考えて動けるようになってきて、人と接することのおもしろみが出てきたのかなあって思うんですけどね。

●昔のガス釜で炊くごはん

吉橋：ご飯は何升炊くんですか。

原田（錦）：ご飯を炊くお釜が三升炊きなもんですから。そのお釜もね、母たちの代の頃に、婦人会で、買った、ガス釜なんです（笑）。

畑野：昔、お葬式なんかをやっていると、組になっている人たちがご飯を炊いたりしていたので、その時のお釜、ですもんね。

原田（錦）：そうですそうです。

●年寄りになっても仲良く元気に暮らせるまちに

吉橋：活動の秘訣とか、これからどうする、というのがもしあれば教えてください。

原田（錦）：男の人達がほとんど中心でやってくださってるんですけど、女の人が、元気で活躍している地域は、一番、活発に（笑）活動ができてののかなと。ははは…勝手に、思っています、ふふふ…。

畑野：この活動が、どのように続いていくかということは、保証できないというか（笑）ちょっと自信がないけど、とにかく、年寄りになっても仲良く元気に暮らせるまちになりたい、それが願い、です。

原田（茂）：有間の活動だとか女性部の活動が、地域おこしで活躍してみえるねっていうようなことを外から言われるんですけども、やってる私たちは（笑）、まちおこしだとか地域活性化だとか（笑）少しも感じないし、そんなこと思ってないわけね。

ただ、女性部の人達は、集まってお話をすることが楽しいという、その集まるにはただ集まるんじゃないくて、イベントで出店をしたり、なにかをする、そうすると、いろいろ情報も得られるし意思の疎通というのかね、そういうのが図られていく。で、楽しい日々も過ごせると。そんなようなことなんですよ。今のところは。



出店の様子



タケノコご飯



小渡こども園の園児とともに

●有間じゅうが集まって

原田（錦）：5月の食事会にね、年寄りの、おばあちゃんたちがみんな出てきてくださるんですよ。「わしゃあもう年寄りだから」なんてね、言われる方もあるんですけど、でもその人たちもね、喜んで、来て下さって一緒に食事をしてくださる。ほんとにわたしたちの、有間じゅうが集まって、食事会ができるって、素晴らしいことだなあと思っています。

畑野：お葬式、自宅でやってた頃は、みんなの力でご飯を作り、集まってご飯を食べるって機会があったけど、それも、若い時分にしてみたらすごくめんどくさかったんですけども、今になって歳を取ったら集まってご飯食べることが楽しい。だからみんなの知恵を借りながら、ご飯を作る手間はさておいて、後に、ご飯を食べてしゃべるのが楽しいっていう。ふふふ…。

原田（錦）：ほんと昔はね、そのお手伝いに行ってるね、「豆腐はこれくらいの大きさに切らなきゃいけません」なんて言われたりしてね、ふふふ…！

畑野：先輩方に（笑）、その、お伺いを立てながら、若い人間は、味付け、濃いかな、薄いかな（笑）と思うと怖くて手が出せない（笑）とか。

原田（錦）：それで勉強してきましたよね。

畑野：そういう下地があって、うん、今ね、今はこういうふうだと楽しいよね、お葬式の時とは違うんですよ（笑）

一同：ははは…

●子どもとともに

原田（錦）：自治区の生活部の行事で子ども達が、今度ここ、見学に来てくれて、竹を使ってなんかするんですよ。

原田（茂）：親子体験活動ちゅうのが最初のスタートだね。いろいろなことをやって、今年は、ここの見学と、竹を使った体験。ものづくりだね。会員の、得意な人が竹細工的なことをやっておくれる。

原田（錦）：竹でとてもかわいいカエルを作る人が近くにいてね。

原田（錦）：冬はね、私たち、甘酒つくったりしてね、ははは…差し入れに來たりしてね

吉橋：ああーいいですねー。それは喜ばれますね。

原田（錦）：わたしはサツマイモ作ってるからね、芋をもってきて焼き芋（笑）。

=====

笑いの絶えない楽しいインタビューになりました。「年寄りになっても仲良く元気に暮らせるまちに」…本当に理想的だと思います。お話を聞かせていただいたいてありがとうございました。

聞き手：豊田市矢作川研究所 吉橋久美子



タケノコづくしの食事会





お邪魔しました！

活動訪問記

2016年3月13日（日）



(未整備エリアの様子)

●ウグイスの鳴く竹林で

良く晴れた日曜の朝8時半。有間町竹ノ下の「竹林ふれあいの小屋」には白いヘルメットをかぶり、腰に手鋸を下げた十数人の会員たちの姿がありました。「〇〇君どうした」「最近来んなあ」欠席の会員を気遣う会話が交わされています。小屋の周りの竹林はきれいに間伐されています。垂直に伸びる緑の竹と節の黒線。遠くまで見通せる空間にウグイスの鳴き声が響いています。

●「ほんとにきれいになった」

今日の活動は竹の焼却です。山のように積んである竹を、焚火にどんどんくべていきます。竹は勢よく爆ぜてパン！パン！と鉄砲のような音がこだまし、焦げた葉と炎が空高く舞い上がっていました。火の傍にいる会員の顔は真っ赤。しばし手を休めておられる方たちにお話を伺いました。

「家におるとだんだん世間が狭まなっちゃう。みんなで何かやっとなんと」「矢作川沿いはほんとにきれいになった。日当たりがよくなって、道路が凍結するところも減ったんじゃない？」

「対岸から見るときれいだよ。」

皆さん活動の手ごたえをしっかりと感じておられるようです。

●「地元で仲良く楽しく」

竹林を進むと未整備のエリアがあります。立て込んでいて、黒く枯れた竹が幾重にも倒れ、薄暗く、中に踏み込むこともできません。整備された美しい竹林も、元はこんな感じだったんですね。そこで、一人の女性が枯れた竹を道路わきに出す作業をしていました。

「黒い竹が汚いでしょう。きれいにしとかんとイノシシも来る。夏は畑で忙しいで、冬のうちにちょっとずつね。」

「女性も頑張ってるんですよ。タケノコを出荷したり、祭りで出店をしたり。地元で仲良く楽しく。」

笑顔で教えて下さいました。愛護会の活動は人と人とのつながりを結びなおすことにもつながっているようです。

休憩をはさんで再度活動、終了時刻が近くなると燃やした竹はすっかり灰に。再び竹林ふれあいの小屋に集まり、原田茂男会長のご挨拶で活動は終了です。



皆さんが整備した竹林にはこれからも有間の皆さんが集い、おいしいタケノコが顔を出してくれることでしょう。



休憩時間の談笑も楽しい